

加治川を愛する会

vol.27

発行日2025(R7)12.31

●発行責任者

会長 鬼嶋 正之

●編集責任者

事務局長 宮嶋 荣

印刷 昭栄印刷(株)

揮毫：渡辺 薫風

撮影／佐藤 浩幸 氏

「加治川堤桜 百年に寄せて」



新潟県
新発田地域振興局長
坪川 孝子

として、堤桜がさらに百年先へと
続くよう願いを込めて、植樹させ
ていただきました。

大正天皇の即位と加治川分水路の完成を記念して植樹された初代の桜、そして、水害による伐採を経て復活した現在の桜。二〇二五年は、植樹から二代合わせて百年の記念すべき年でした。

これを機に新発田地域振興局では、加治川分水門上部の三角島橋をリニューアルするとともに、桜以外の時期も賑わうよう、加治川を愛する会及び加治川さくらの里づくりの会との共催により、「加治川さくら百年マルシェ」と題したイベントを企画いたしました。

当日の十一月一日は、あいにくの天候でマルシェ（青空市場）は中止となりましたが、水門の三角島橋の渡り初めに続き、百周年記念植樹式が行われました。イベントの主催者として、そして新発田に生まれ、加治川に親しんだ一人

度重なる水害に苦しんだ加治川下流の人々にとって、分水路は悲願であり、完成は大きな喜びであつたことでしょう。おそらくその喜びが六千本もの植樹に繋がり、長堤十里、世界一と謳われる地域の宝になつたのだと思います。そして、一度は失われたものの、多くの人々の熱い思いと努力によって現在の姿に甦りました。

何度も聞いても胸が熱くなる。この「長堤十里加治川さくら物語」を、ぜひ地域内外の多くの方に知つていただき、この地を訪れていただけるよう、振興局としても引き続きPRしてまいりたいと思います。

加治川を愛する会をはじめ、堤桜に関わる方々の活動に敬意を表するとともに、今後一層のご活躍を祈念申し上げます。



右岸 草荷地内



左岸 四ツ屋地内

人気アイドルグループ「ももいろクローバーZ」のリーダー百田夏菜子さんが、四月一日にエフエム新発田の収録番組に出演され、本会より、ももクロが加治川を訪れるところで桜がより華やかになるとの期待が伝えられ、加治川の魅力も紹介されました。

春のももクロ 春の一大事



ぽかぽか陽気の好天に恵まれた今年。会のメイン行事の花見ウォークは、加治川治水記念公園を出发し、さくら大橋と紫雲寺橋を回る約五・五kmのコース。のんびりと歩けて気持ちが良かつたですね。参加者には、ドリンクや絵はがき

(令和八年の花見ウォークは四月十
一日(土)の予定)

がプレゼントされました。
例年この行事に参加くださる方の中には2年連続で東京から来てくださる方もおりました。

加治川に来訪する方が気持ちよく花見をしたり、散歩していただけたりすることを期待し、三月二十四日、ごみの回収と雑木の除伐作業を実施しました。

思いのほかごみは少なく、普通トラック一台分でした。不法投棄が前年より少なく安堵しました。作業後には気持ちの良い汗をかいていたことに気づきました。



清掃作業で汗 加治川クリーン作戦を実施



東京で語る「加治川と共に生きる」

新潟県の情報・魅力を発信し、ゆかりの方々とのネットワークを構築することを目的としたイベント
「新潟プレミアサロン」が九月十六日、東京都で開かれました。古くは水害に悩まさ

植樹百周年 記念イベント



加治川左岸「米子桜橋」上流の桜木に隣接する雑木の枝が張り出し育樹に支障があるため、桜木を守ろうと七月五日と十月三十日に除伐作業を実施しました。また樹木の成長を促すため施肥作業を九月二十六日に実施しました。



れました。その会場で鬼嶋会長が講演を行いました。

会場は、東京都中央区の「銀座新潟情報館 THE N 11 G A T A」の三階イベントスペース。「阿賀北、加治川とともに生きる植樹百周年の桜の名所がつなぐ人・未来」をテーマに開催されたものです。

更には泣く泣く切った桜の木が、新潟小学校の体育館の床修繕に活用されたことはじめ、新潟市内の多くの学校の修繕材に活用されたことなどが話の中で披露されました。

更には泣く泣く切った桜の木が、新潟小学校の体育館の床修繕に活用されたことはじめ、新潟市内の多くの学校の修繕材に活用されたことなどが話の中で披露されました。



今年も植樹祭が開催されました。十月十二日（日）、胎内市乙室寺境内で行われ、地域の皆さんや緑化ボランティア団体の関係者約七十人が参加しました。緑の大切さや尊さを啓発する事業です。この活動を通して更に緑化推進の輪が広がることが期待されます。



山桜を植樹

環境保全活動を行う

れてきた歴史を持つ加治川ですが、現在約二千百本余りの桜が咲き誇る名所となっています。」と話されました。そして、「桜は花としての美しさだけでなく、地域の人々の記憶や誇りを映す存在。

桜を守ることは、地域の未来を守ることにつながる。」と語り、保存活動の意義について熱く語つておられました。その後、参加者との歓談・交流の場では、夏には加治川で泳いだことや花見に行つたころの思い出など終了時間を忘れる程の交流会となりました。

胎内市植樹祭 新発田地域緑化推進協議会



新発田地域振興局長へ

加治川を愛する会
は主眼に河川環境の整備や地域緑化を推進する「加治川さくら里づくりの会」と連携しながら対外活動をおこなっています。

今年の県・市町行政への要望活動は、十月一日に新潟県新発田地域振興局と聖籠町へ、また同月十日には新発田市へ実施しました。

要望・提案事項は

- (1) 植栽箇所の確保を
- (2) 河川機能と環境維持のための伐採及びコスト縮減と資源を有効に使

(3) 加治川の桜並木「桜みち」として加治川第二頭首工・加治川橋等にアンダーバスの検討を

(4) 特定外来生物「クビアカツヤ・カミキリ」の発生地域、動向把握、防除対策等の情報提供を

加治川堤に桜を植樹して以来、今年で百周年を迎えることができました。今までの関係団体の皆様のご理解とご協力によるものと感謝いたしました。



新発田市副市長へ



新発田中央ロータリー 木戸会長と

新発田市内の ロータリークラブで講話



聖籠町長へ



新発田城南ロータリー 市野瀬会長と

十月二十三日と十一月二十二日に、本会の活動をより多くの人に知つてもらうため、新発田市内で行つてゐる「新発田城南ロータリークラブ」と「新発田中央ロータリークラブ」の例会に参加させていただき、加治川の放水路としての歴史や桜堤の歴史を会長から会員の皆さんへお話ししました。

加治川の美しい自然を次の世代に継承する活動の一環で、多くのご支援と会員加入もいただきました。

春だけじゃもつたらない！ 加治川桜堤百周年・水門竣工百十周年イベント



加治川の桜は大正三年（一九二二年）に植樹されて、羽越水害後に伐採された期間を除き、今年で新旧合わせ百周年を迎えました。

これを祝し、新潟県新発田地域振興局が主催し新発田市と聖籠町の支援の下、当会を始めとする関係団体による「加治川さくら百周年マルシェ」「加治川水門竣工百十周年の渡り初め式」を十一月一日に計画しま

したが、荒天のためマルシェは中止となりました。

しかし、加治川を愛する会では降りしきる雨の中、新発田地域振興局長や加治川さくらの里づくりの会長を始め関係者の参加を得て次の百年後も美しい桜が見られるようになると願いを込めて記念植樹しました。前段水門の渡り初め式も行われました。



子どもたちに 郷土愛を育む活動

今年も学校からの要請を受け、新発田市・聖籠町の両市町の小学四年生の総合学習の一つとして「加治川の治水事業や桜並木の復元運動」の歴史を語ってきました。令和七年十月に町立山倉小学校へ、また十一月には市立紫雲寺小学校へ行つてきました。



三月までに豊浦小学校でも予定されています。

子ども達からは、「最初に桜の木は何本くらい植えたの。」とか「今は何本くらい植えられていますか」などの質問がありました。「今まで何本くらい植えられていました。」「加治川の治水事業の歴史」「桜の木をたくさん植えたこと。そして、大事に育ててきたことを聞き感心しました。」「これからは加治川がいろいろな歴史を通して来たことを思いながら、花見に行きたいな。」といつてくれました。

桜づつみの今昔(1)

加治川の土堤に桜が植栽され始めてから百年もの月日が流れています。その間、多くの先人の溢れんばかりの桜に対するあこがれが原動力となり現在の桜並木があります。

そこで最近の数十年の活動についてご紹介します。

一九八九年（平成元年）、県が事業主体となり、「国の桜づつみモデル事業」の認定を受け事業を開始しました。

全体計画　総延長二十九・三km
(加治川二十・七km・姫田川等八・六km)

堤防東帶盛土は県が、桜の植栽は副堤（堤防側帯）に植えることを条件に「堤桜復元市町村連絡協議会」が担当するというもの。

▽事業費　十一億七千八百万円



賛助会員の応援に感謝

令和7年当会の趣旨に賛同頂いた、賛助会員の皆さんを紹介します。誠に有り難うございました。引き続きご支援をお願いいたします。

○5万円　ハーデオフコートボレーシヨン
山本善政様(新発田市)

○3万円　小池雅治様(鎌倉市)
関東紫雲寺会様

○2万円　山田昭夫様(杉並区)
佐藤歯科医院様

○1万円
山崎歯科医院様
村山歯科医院様
石橋歯科医院様
長嶋歯科医院様
佐藤歯科医院様
稻富歯科内科学院様
原消化器内科学院様
歯科小林クリニック様
木戸歯科医院様
笛川医院様
陽だまり苑様
片山歯科医院様
いいじま歯科クリニック様
株熊喜様
やまだクリニック様
石塚学様
城下町新発田会様
扶桑畜産様
昭栄印刷様
○物品提供
イオングループ様から事務用品のご支援をいただきました。

ホームページを開設しました

加治川の歴史や桜の歴史を多くの皆さんに知つてもらうため、会では、植栽百年を契機にホームページを開設しました。

次の百年に向けて魅力ある様々な情報を発信していきます。よろしくお願いします。



ホームページ
はこちら

編集後記

今年も多くの皆様の御支援により苗木の植樹や肥培管理がおこなわれました。

桜の本数も増え、現在二千本余りになりました。さらに美しい桜づつみが造られています。

来る春もまた美しい景色を見せてくれることを今からワクワクして待っています。皆様のご支援と思いが詰まった満開の桜を来季も期待しましょう。

(編集子 神田)